|マンダリンヒーローの軌跡| Birth～生誕

2020年3月20日、北海道の新ひだか町三石にある小さな牧場で1頭の牡馬が産声をあげた。父は2012年の全米2歳チャンピオンで、前年に米国から日本へやってきて新天地での種牡馬生活を始めたばかりのシャンハイボビー。母は繁殖入りが危ぶまれるほどの大怪我を乗り越え、生まれ故郷に戻って8年目の繁殖生活を迎えていたナムラナデシコ。お産に立ち会った平野牧場の代表・平野謙二さんは生まれてきたその仔を見て、「しっかりとした馬」という第一印象を持ったという。

マンダリンヒーローの父シャンハイボビー

マンダリンヒーローの母ナムラナデシコ

同期の馬たちと広い放牧地で育つマンダリンヒーローの半妹（牝当歳、父ルヴァンスレーヴ）

大きな怪我や病気もなく、健やかに成長していったナムラナデシコの2020。「もともとこの牝系の出身馬は、スピードを生かして短距離で活躍する馬が多いんです。父がシャンハイボビーに変わり、その長所がさらに伸びてほしいと思っていました」と話す平野さん。普段から世話をしていたスタッフは「鋭い目つきをして独特の雰囲気を持っていた」と当時の面影を思い出し、「いつもはおとなしいのですが、隣に他の馬がきたりすると突然スイッチが入り、うるさい面を見せることもありました」とその幼少期を振り返る。同期の馬たちと広い放牧地を駆けまわりながら昼夜放牧で心身を鍛えられ、1歳夏になるとせり上場に向けたコンサイニングを施すため同じ三石にあるTEAM UNITYへ移動。「この時点では芝向きかダート向きか、判断するのが難しいと思っていました」（平野さん）。そして迎えた2021年8月の北海道市場サマーセール。そのせりの結果が、同馬の将来を大きく変えることになるとはこの時点で誰も想像していなかった。

サマーセール落札時のマンダリンヒーロー

サマーセール4日目の8月26日、全上場馬1413頭の中の924番目に鑑定台へ姿を現したナムラナデシコの2020。500万円の1声目から価格はどんどんせり上がり、最終的には1000万円（税別）で東京都馬主会・新井浩明氏の下にハンマーが落ちた。東京都馬主会（大井競馬の馬主会）では事前に希望者を募って抽選を行い、指定する市場で1歳馬を購入した際の金銭的な補助を行う制度を設けている。新井氏はその制度を活用し、このサマーセールで1歳馬を購入。必然的に落札した馬の所属は大井競馬となり、のちにマンダリンヒーローと名付けられるその青鹿毛の牡馬は大井・藤田輝信調教師の下で管理されることになった。ちなみにこの年のサマーセールでは、のちにライバルとなるヒーローコール（浦和）、22年ぶり史上2頭目の南関クラシック無敗三冠馬に輝くミックファイア（大井）も取引されている。それぞれがそれぞれの道で輝くことになるのだが、マンダリンヒーローの場合は藤田調教師との出会いがその運命の分岐点だった。

SANTA ANITA PARK
FRIENDSHIP
Since 1995
TLK